オトナのふるさと学習

月刊このへん だいすき

令和元年 11月号

作　セルジュ・タカハシ

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ
ずっと「このへん」なあなたも、最近「このへん」なあなたも、
読めばたちまち、「このへん だいすき」に

江戸歌舞伎から直輸入。「このへん」育ちの三味線音楽を昭和の政界、財界、花柳界で日本中が習いたがったワケ。

江戸歌舞伎から直輸入

雄物川町に今も伝わる伝承によれば、江戸歌舞伎で一番の名優市川團十郎の弟子泉団之丞が安政年間に雄物川に来て教えたものが広まったという。

三味線音楽

歌舞伎を爆発的に流行させた大きな原因が三味線という楽器。数多くの三味線音楽の一つである、「新内」の名が付く「岡本新内」もそのひとつ。

日本中が習いたがる

雄物川の流域や秋田土崎まで広がり流行した岡本は、次第に洗練され、お座敷芸として全国の花柳界で流行。旦那衆もこぞって習い大ブームに。

その曲は岡本新内といいます。

発祥の地とされる雄物川町のいい伝えによれば、江戸歌舞伎の頂点に立つ市川團十郎の弟子泉団之丞が、幕末の安政年間に教えて大流行したものといわれ、唄と踊りの一座で各地を公演し「岡本っこ」と親しまれました。

なぜ江戸歌舞伎が「このへん」に直接伝わったのかについては、当時生産量日本一の院内銀山が幕末に迎えたシルバーラッシュで、人と金を呼び寄せた影響だと指摘する研究者もいます。

その魅力を見出して洗練させ、昭和の情手のお座敷にデビューさせたのが、岡本一寸平でした。

岡本新内として東京の舞台で披露されると、その歌詞や曲調が人気となり、たちまち全国の花街で大流行します。

お座敷ではお姐さんと一緒に岡本を唸るのがトレンドになり、名だたる政治家や財界人などがこぞって名取になって、岡本は全国区の芸能に昇りつめました。

今も雄物川や情手に伝わっている岡本新内に、今年令和元年、岡本一寸平を継承する四代目の家元が誕生し話題になりました。

幕末に「このへん」に伝わった「岡本新内」は江戸歌舞伎直輸入。
全国の花柳界で昭和のおじさまがたに大流行。その伝統は今も。